新たなコンセプトで開発進む マシニングセンター

工作機械業界の市場動向を探る

工作機械業界は回復期から成長局面入りしたと見ている。回復を牽引してきた外需は、先行指標であるマクロ指標悪化を受け、2011年後半から踊り場入りする見通し。しかし、新興国では経済成長を背景に、自動化投資の中期的な回復を予想。足元の景気減速を過度に悲観する必要はないと見ている。国内向けは受注と連動が高い自動車生産が増産モードに入った。さらに復興関連向けでは、ガスタービン、建材加工向けに加え、建設機械関連などの受注増加も予想。工作機械月次受注額は13年に過去ピーク水準へ増加を予想している。

みずほ証券
グローバル・リサーチ本部
エクイティ調査部
アナリスト　薄井　太

●市場全般の現状

工作機械市場は回復局面から成長に踏み出す局面にあると見ている。日本工作機械工業会が発表した7月の工作機械受注（速報値）は、前年同月比34・6％増の1132億円となった。受注総額は6、7月の2カ月平均で1209億円と、金融危機前の水準である1200億円を超過し、好調が持続している。受注の内訳を見ると、内需が前年比21・7％増の356億円となった。前年比では20カ月連続で増加した。東日本大震災の復興関連であるガスタービン加工用や仮設住宅用関連に加え、自動車、半導体、建機関連の受注が増加した。

また、外需は前年比41・5％増の776億円となった。過去最高を更新した前月6月の869億円は下回ったが、過去3番目の高水準である。需要先では中国向けが減速傾向にあるものの、米国・欧州でのエネルギー関連向け、自動車関連が堅調に推移した。

日本工作機械工業会では11年受注目標を1兆1000億円としているが1―7月の累計受注金額は7875億円と、計画比71・6％に達している。各社想定為替レートである1ドル82―83円に対し、円高が加速していること、電力需要動向といった受注、生産に関する不透明要因は残るものの、11暦年受注は内需回復を牽引役に1兆2800億円程度へ上振れする可能性が高まっていると見ている。

●今後の市場予測

工作機械受注の見通しは、1ドル＝80円、中国国内総生産（GDP）成長率＝前年比9％増などを前提に、11暦年が前年比31・0％増の1兆2824億円、12暦年が同2・8％減の1兆2468億円、13暦年が同9・8％増の1兆3696億円と13年に過去ピーク水準へ増加を予想している。**表**は四半期別の内外需に分けた工作機械受注総額とその内訳である内需、外需の動向を示している。

まず内需から見ると、11年（暦年）第2四半期実績で1073億円だった受注金額は、13年（暦年）第1四半期で1653億円へと増加を見込む。この牽引役は震災による民間企業の資本ストック復旧効果である。震災による経済ストックの被害額は、道路、港湾・海岸、上下水道といった社会インフラ関連で8兆円、民間企業設備で11兆円に達すると推測している。こうした社会インフラ復旧のための公共投資は12年後半から14年まで増加すると考えられる。さらには民間企業の復旧投資に加え、サプライチェーン・マネジメントの強化・改善のための設備投資や中期的な電力不足に対する代替電源確保のための設備投資、耐震構造強化などの独立投資も増加が予想される。設備投資が中期的な増加トレンド入りすることで、工作機械内需の受注は増加基調が続くと考えている。

次に外需に関して予測してみたい。外需は11年（暦年）第2四半期実績で2363億円と四半期ベースで過去最高を更新したが、第3四半期以降その成長率は踊り場入りする見通しである。具体的には12年の四半期平均受注は1737億円とピーク比26％減を予想。これは外需の約7割を構成する中国、ドイツ、米国において受注の先行指標であるマクロ指標が悪化しているため。11年後半から四半期別の外需動向を示した**表**では、中国の購買担当者景気指数（PMI）、米国のISM製造業景況指数（ISM）、ドイツのIFO景況感指数（Ifo）を元に作成したマクロモメンタムチャートと外需受注推移を比較している。なお、これらマクロ指標の動向は受注に対し、先行する傾向があるため、マクロモメンタムチャートはメモリを3カ月後方へ移動している。マクロモメンタム構成要素である各指標をみると7月の中国PMIは50・7と2年5カ月ぶりの低水準を記録。輸出先である米国では7月のISMが50・9と前月55・3から大幅に低下。ドイツでは7月のIfo景況感指数が112・9と前月114・5から低下。各地域ともに好不況の境目をさまよっている状況で、11年内は低迷が続くと見ている。

12年以降に関しては、米国、欧州での設備投資は中期で低迷が予想される一方で中国経済は、世界景気減速に伴う消費者物価指数（CPI）上昇率の鈍化が期待できることに加え、物価コントロールや不動産健全化策の効果顕在化により12年から持ち直すものと想定。中国では経済拡大を背景に自動化・省力化に関する設備投資は再び増加トレンドへと回復すると見ており、外需は14年第1四半期に1881億円へと堅調な増加を予想している。

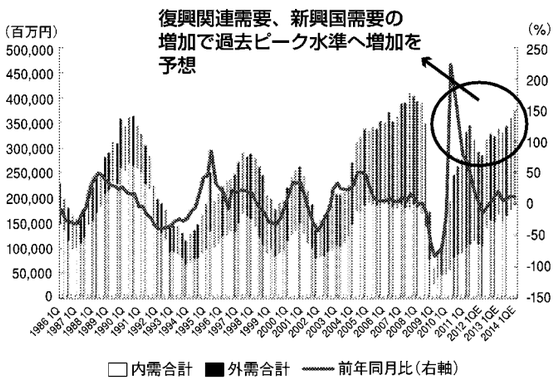
●工作機械メーカーの経営戦略ならびに今後の課題

為替が対ドルで戦後最高値を更新、さらには電力問題も加わり日本の製造業はかつてない厳しい事業環境下にある。しかし、このような事業環境下でこそ、世界一の自動車産業を相手に競争力を高めてきた工作機械メーカーの一層の経営の進化があると考えている。

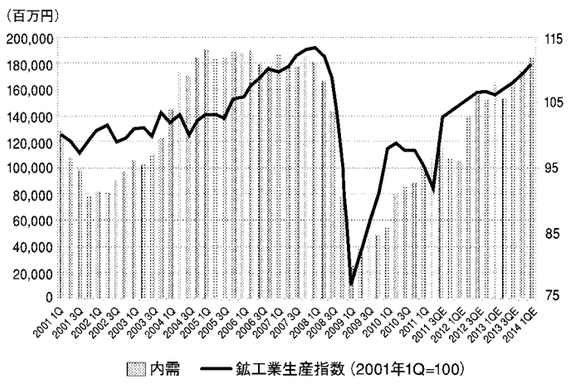
工作機械業界では中・高位機種は日本ならびに欧州メーカー、低位機種は韓国、台湾、中国などの新興メーカーといったすみ分けが解消に向かいつつあると見ている。特に成長著しい中国市場では、中国工作機械メーカーが、中国自動車メーカーのエンジン加工生産ライン向けにエンジンブロック、シリンダーヘッドの加工ラインを納入するなど、高付加価値、高価格の多軸・複合加工機で販売実績を積み上げつつあるようである。さらには日系自動車メーカーの中でも、エンジン周りの高精度を求められる製造工程以外において、生産ラインの一部に中国、インドメーカーを導入したことが明らかとなっている。中国工作機械大手では、NC化率を高めた高付加価値機を導入し、足元需要は旺盛としつつも現段階では製品の精度や耐久に難があり欧州、日本メーカーと競争できるレベルにはないと言うが、技術力の向上は鮮明である。

実際、今年7月に開催された上海国際工作機械見本市では、中国工作機械メーカーからNCを搭載した高付加価値機種が数多く展示された。量産化に向けては、加工精度を高めるため製造工程での技術・技能の熟練化が必要。さらにユーザーの加工技術や稼働率を高めるための情報技術も必要であり、日本メーカーの優位性は揺るぎないと考えている。しかし中期では、主力の3軸マシニングセンター市場でも製品力を増した新興国企業との間で価格競争の激化を予想する。

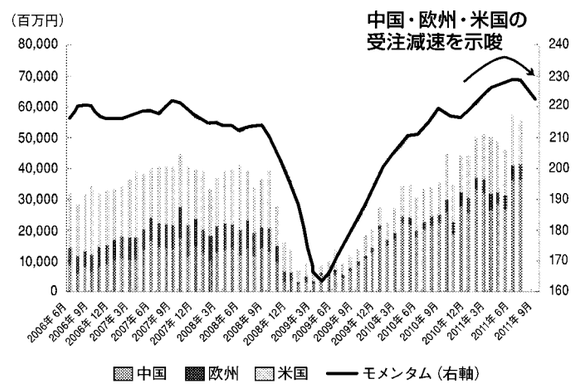
対抗策として注目しているのは、新規の海外現地ユーザーの囲い込み戦略動向である。新興国では海外他社に先駆け低価格のエントリー機で新規ユーザーを囲い込み、現地の人材活用を通じてユーザーと緊密な関係を構築することで、中長期での競争優位性を維持する経営戦略が求められる時代に入ったと考えている。厳しい日本市場で培った経験を生かし、ギリギリまでコストを切り詰めながら多様なユーザーの声を反映した高度な製品を製造し収益化する経営に今後も期待している。



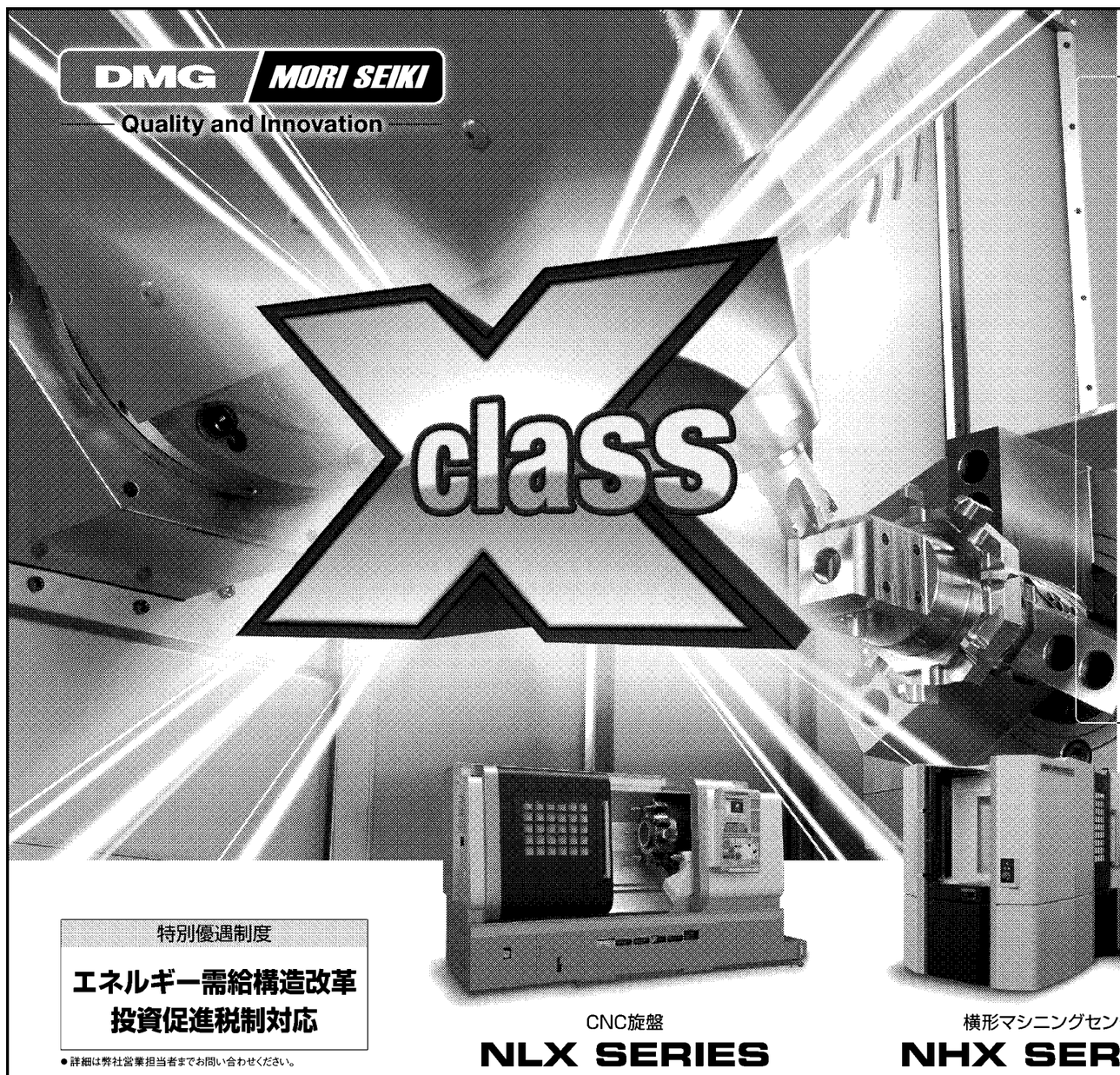
出所：日本工作機械工業会データよりみずほ証券エクイティ調査部作成



出所：日本工作機械工業会データ、Bloomberg データよりみずほ証券エクイティ調査部作成



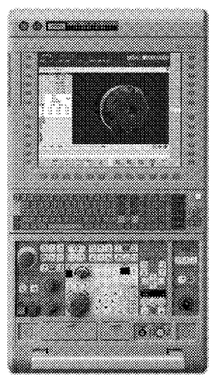
出所：日本工作機械工業会データ、Bloomberg データよりみずほ証券エクイティ調査部作成



高剛性　高精度　高速　高効率

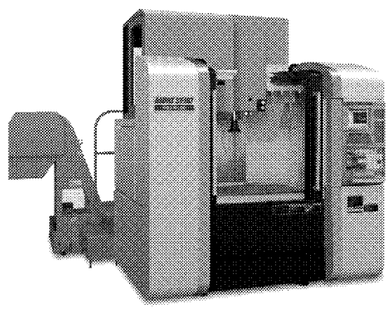
X class 続々誕生中!

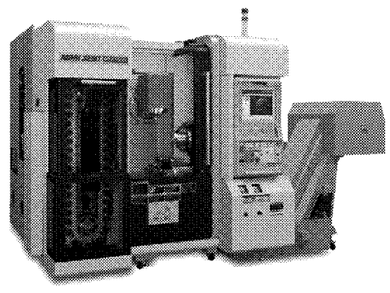
熱変位抑止　省エネ　豊富なバリエーション　世界各国安全規格対応


MAPPS Ⅳ

CNC旋盤
NLX SERIES

横形マシニングセンタ
NHX SERIES


立形マシニングセンタ
NVX SERIES


複合加工機
NTX SERIES

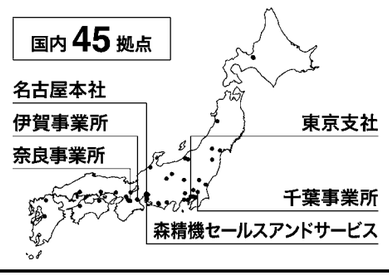
特別優遇制度
エネルギー需給構造改革投資促進税制対応
● 詳細は弊社営業担当者までお問い合わせください。

MAPPS: Mori Advanced Programming Production System

株式会社 森精機製作所
■名古屋本社　名古屋市中村区名駅2丁目35-16（〒450-0002）TEL.(052) 587-1811　FAX.(052) 587-1818
■東京支社　東京都港区港南2丁目15-1 品川インターシティA棟18階（〒108-6018）TEL.(03) 5460-3570　FAX.(03) 5460-9610
■奈良事業所　TEL.(0743) 53-1121
■伊賀事業所　TEL.(0595) 45-4151
■千葉事業所　TEL.(047) 410-8800

株式会社 森精機セールスアンドサービス
名古屋市中村区名駅2丁目35-16（〒450-0002）
TEL.(052) 587-1862　FAX.(052) 587-1864

サービスセンタ　フリーコール 0120-124-280　フリーコール 0077-78-0222　24時間 365日 通話無料

国内45拠点


EMO Hannover 19-24·9·2011
Hall 2 | Entrance North

Gold Sponsor
worldskills London 2011
Showcasing skills that shape our world